令和８年８月２５日

# 中野区消防団運営委員会（第２回）次第

１　委員の委嘱

２　議事

⑴　今回の諮問事項に係る答申案の検討について

⑵　委員会日程について

⑶　その他

【配布資料】

・中野区消防団運営委員会委員名簿
・資料１　中野区消防団運営委員会における答申（案）概要について
・資料２　中野区消防団運営委員会における答申（案）について
・資料３　消防団員アンケート結果
・資料４　消防団員アンケート用紙
・資料５　委員会日程（案）

# 令和８年度中野区消防団運営委員会委員名簿

| | 氏　　名 | 備　　考 |
|---|---|---|
| 委員長 | 酒井　直人 | 中野区長 |
| 委　員 | 荒木　ちはる | 都議会議員 |
| 委　員 | 西沢　けいた | |
| 委　員 | 久保　りか | |
| 委　員 | 河原井　守 | 中野防火防災協会会長 |
| 委　員 | 大野　道髙 | 野方防火防災協会会長 |
| 委　員 | 河合　りな | 区議会議員 |
| 委　員 | 大内　しんご | |
| 委　員 | 木村　広一 | |
| 委　員 | 黒沢　ゆか | |
| 委　員 | 立石　りお | |
| 委　員 | 有川　泰広 | 中野消防署長 |
| 委　員 | 森川　敏也 | 野方消防署長 |
| 委　員 | 野中　幸雄 | 中野消防団長 |
| 委　員 | 藪下　修弘 | 野方消防団長 |

資　料　１

# 中野区消防団運営委員会における答申（案）概要について

## １　諮問事項

切迫する首都直下地震に備え、効果的な活動の実現に向けた災害活動力の継続的な強化方策について

（審議期間：令和７年７月から令和９年３月まで）

## ２　諮問の趣旨

令和６年元日に発生した能登半島地震では輪島市での大規模火災など１７件の火災が発生し、消防団は自ら被災しながらも地域住民の命を守るため、避難の呼びかけや消火活動など懸命な活動を展開されました。

首都直下地震では６００件を超える火災が発生すると想定されており、地域住民の安全安心を守るには、消防署隊との連携した訓練や活動はもちろん、消防団が主体的に実戦的な訓練を推進し、災害時に確実かつ効果的な活動を展開していくことが必要不可欠です。

その実現に向けては、地域社会の多様化に対応するために様々な主体との連携や取組に関する検討を進めるとともに、消防団の災害活動力を継続的に高めることが重要であり、併せて消防団員の負担軽減にも配慮した取組が求められます。

これらを踏まえ、切迫する首都直下地震などの大規模災害に備え、効果的な活動の実現に向けた災害活動力を継続的に強化していくための方策について諮問するものです。

# ３　中野区消防団運営委員会における答申（案）概要

| 課題１ | 検討事項 | 検討の方向性 |
|---|---|---|
| 消防団員の負担軽減と活動環境の最適化が重要である。 | １－１　消防団活動の効率化による負担軽減について | （１）消防団専用アプリ等の導入による消防団運営の効率化や情報連絡体制の強化<br>各種災害発生時の情報連絡及び水利・地図情報等の機能を備えた秘匿性の高いアプリの導入<br>（２）各種資機材の機能性、利便性向上に向けた改善方策の検討<br>MCA無線機の更新、多言語ツール機能等が導入されたタブレット端末の更新を検討<br>（３）従来の枠組みにとらわれない柔軟な訓練、行事による負担軽減方策の検討<br>実災害に活かせる訓練にシフト及び消防団e-ラーニングシステムを活用した学習の推進 |
| | １－２　多様な主体との連携による被害軽減方策について | （１）町会自治会や学校コミュニティ等との更なる連携強化<br>防災訓練指導等を、町会・各学校等以外のマンション居住者や商店街でも積極的に推進<br>（２）在留外国人、外国人観光客への防災指導等に関する検討<br>多言語ツール機能等が導入されたタブレット端末の更新を検討 |

地域特性等を踏まえ検討

| 課題２ | 検討事項 | 検討の方向性 |
|---|---|---|
| 災害対応力の強化と訓練の実効性を高めることが重要である。 | ２－１　首都直下地震を想定した実戦的な訓練の定着について | （１）東京消防庁ｅ-ラーニングシステムを有効に活用した教育訓練体系の構築<br>基礎教育を含め消防団e-ラーニングシステムを活用した自己学習の推進<br>（２）訓練経過や訓練内容の「見える化」（アプリとの連動など）の推進方策の検討<br>訓練経過をアプリで進捗管理する「見える化」・ＡＩ動画による基礎教材動画の作成を推進<br>（３）実災害に即した署隊との多様な連携訓練の推進<br>実践的な訓練による知識、技術の向上及び機会を捉えた署隊の実動訓練・図上訓練を推進 |
| | ２－２　消防団自らが企画・実施する主体的な訓練の推進と充実について | （１）各消防団の地域特性に応じた訓練内容、方策の検討<br>地域特性を把握し、その特性に応じて必要とされる基本・応用訓練の推進<br>（２）方面訓練場や消防署訓練施設の有効活用に向けた方策の検討<br>方面訓練場を活用することで、より実践的な訓練機会の創出を推進 |

資料２

第２回中野区消防団運営委員会資料

# 中野区消防団運営委員会における答申（案）について

資料作成

中野消防署警防課防災安全係

# 中野区消防団運営委員会答申書（案）

## 「切迫する首都直下地震に備え、効果的な活動の実現にむけた災害活動力の継続的な強化方策について」

令和６年元日に発生した能登半島地震では、輪島市での大規模火災など１７件の火災が発生し、消防団は自ら被災しながらも地域住民の命を守るため、避難の呼びかけや消火活動など懸命な活動を展開された。

首都直下地震では６００件を超える火災が発生すると想定されており、地域住民の安全安心を守るには、消防署隊との連携した訓練や活動はもちろん、消防団が主体的に実戦的な訓練を推進し災害時に確実かつ効果的な活動を展開していくことが必要不可欠である。

その実現に向けては、地域社会の多様化に対応するために様々な主体との連携や取組に関する検討を進めるとともに、消防団の災害活動力を継続的に高めることが重要であり、併せて消防団員の負担軽減にも配慮した取組が求められる。

これらを踏まえ、切迫する首都直下地震などの大規模災害に備え、効果的な活動の実現に向けた災害活動力を継続的に強化していくための方策について、中野区内全消防団員にアンケート調査を行い、１６１名（回答率４２．１％）からの回答を基に、以下のとおり検討した。

### 第１　消防団の負担軽減と活動環境の最適化について

消防団の行う活動は、活動訓練以外にも平常時における応急手当普及指導、防災訓練指導及び火災予防（警戒）活動などの地域に密着した活動を行い、火災や風水害などの災害活動にも対応している。引続き、多種多様な消防団活動を行う上で効果的な活動を実現するため、それぞれの団員が感じる負担の軽減や災害活動力の強化、消防団活動に必要とされる情報共有及び災害発生時の連絡体制や多様な主体との連携による被害軽減策が必要である。

#### １　「消防団活動の効率化による負担軽減」

⑴　消防団専用アプリ等の導入による消防団運営の効率化や情報連絡体制の強化

現在、中野区内の各消防団において、出火報等の出動連絡については

緊急情報伝達システム及び携帯電話等による緊急連絡網を活用している。今回のアンケート結果から、６３．４％が各種災害発生時（火災出動震災及び水災時の非常参集等）のリアルタイムな情報伝達について、消防団専用の連絡用アプリがあれば活用したいと回答している。手軽に使用できるLINE等の双方向コミュニケーションツールの活用頻度が多いとの声もあるが、災害情報の連絡以外に消防団専用アプリに期待する機能として、７３．９％が連絡用アプリで各種連絡事項（団長通知等）が確認できることに期待をしている。他にも、月報提出機能及び水利・地図機能に期待する声も多いことから、各種団長通知及び書類（月報）等の提出についても、秘匿性の高い消防団専用アプリの導入によりこれまでの労力が省かれ、災害情報連絡から団長通知等の情報共有まで、安全で効率的な情報連絡体制が強化できることから導入を検討する必要がある。

⑵　各種資機材の機能性、利便性向上に向けた改善方策の検討

消防団には、防火衣・無線機等の個人装備品、火災・水災活動、救助救護活動等の資器材以外に、平常時の教育訓練・会議から災害時の情報収集・伝達用として活用できるモバイルタブレット（LINEワークス・ZOOM機能）などの多様な資器材が配置されている。

令和８年度には、機能性が向上した新型防火衣の配置（各消防団５年計画で更新、消火班へ優先配置）・防火帽（階級）識別表示が始まり暑熱対策用資器材として、ファン付ウェア(各分団)及び冷却剤（個人）が整備されている。

今回のアンケート調査では、２６．１％が資器材の機能性・利便性について向上・改善を望むと回答しており、資器材の軽量化のほか、重量のある資器材の可動性や遠距離搬送時の利便性の向上など望む声があったことから、今後、資器材導入等の検討に際しては、実際に活用する消防団員の意見を参考とする対応が必要である。

ア　タブレット端末の機能更新

消防団に配置されている現行タブレット端末については、無線や紙媒体を完全に置き換えるものでなく、既存の運用を補完するＩＣＴツールとして活用されている。

特に、団本部及び各分団との間でZOOM会議等での使用や大規模災害時の被害状況や情報を共有する手段を前提に、震災訓練等の機会を通じて取扱い訓練を行っている。引続き大規模災害時の被害状況や活動状況がリアルタイムで共有が期待できるほか、各種アプリを使った学習効果の向上も期待できる。

さらに、タブレット端末にも月報提出書類を可能にするソフトや、手話技能を活用した住民指導で必要とされるコミュニケーションボードをアプリで活用できる音声マイニングツールや多言語ツールを導入するなど、防災訓練等における指導時の利便性向上と操作性向上させることで負担軽減にも繋がることが期待されることから更新を必要とする。

イ　ＭＣＡ無線機更新機種の検討

現行のＭＣＡ無線機は、メーカー機器の新規製造中止に伴い従来サービスの終了予定を控えているが、ＭＣＡ無線機はトランシーバーと大きくことなり、災害時でも安定した無線通信が行えるほか、災害情報等の一斉伝達及び無線波切り替えによる近隣消防団との無線交信が確保できるほか、広域通信が可能で無線免許の資格も必要ないことからメリットが多い。現在の状況を踏まえ、引続き現行と同様の性能を備えた多機能無線機への更新をスムーズに行うとともに、大規模災害時における有効活用が期待されるので、各分団長及び副分団長以外にも一定数の余裕をもった分団への配置調整も検討が必要である。

⑶　従来の枠組みにとらわれない柔軟な訓練、行事による負担軽減方策の検討

各種行事の中でも、操法大会の実施及び事前訓練に対する負担感について、４２．９％が何かしらの負担を感じており、在団者の年齢・職業形態・家族構成等の違いを踏まえ、訓練時間や回数に対する個々の負担軽減を求める声が多くある。従来の慣例的・固定的な運営方法にとらわれず、訓練回数や行事内容を柔軟に見直す対応方策も必要である。負担軽減に配慮する主なポイントとして、訓練回数を求めることなく、ＣＧ動画や訓練動画の視聴学習ができるｅ-ラーニングシステムによる学習も有効である。

また、操法大会については、家庭や仕事の状況により個々の負担が違うことから、訓練を開始する時期や回数を見直しつつ隔年での開催の検討や、競技性を求めず実災害時に活かせる技術の獲得に重点をおいた訓練内容にシフトする検討も必要である。

なお、令和８年度から中野・野方両消防団では、従来の消防団合同点検を、個々の消防団で実施する「新たな団点検」を試行することとしており、従来の活動を点検する内容から、大規模災害時等に消防団が自ら対応できるようにするため、より実践的な活動技術の習得とその成果確認にシフトしていく。

また、全国的に消防団員の減少が続く一方で女性消防団員数は年々増加しており、女性幹部の登用により、女性消防団員の意見も十分取り入れられた活動体制の構築など、世代や性別を超えたフラットな意見ができるような風通しの良い環境作りが必要である。

２　多様な主体との連携による被害軽減方策について

⑴　多様な主体との連携強化

東京都が掲げる「２０３５年まで防災訓練等延べ参加人数１４００万人以上」達成に向けて、引続き消防署と連携した町会・自治会、商店街及び学校コミュニティに対する防災訓練の推進をより一層強化し、平時から防災教育訓練、地域行事等を共同で実施することで、地域全体の防災力向上を図ることが重要である。中野区内の両消防団では、これまでも、防火防災訓練や救命講習指導などにおいて指導実績が豊富であり、それぞれの地域情勢に応じて臨機応変な対応もできるなど期待は大きい。

今後も、町会・自治会の防災訓練や学校関係との総合防災教育への参画が期待されるとともに、消防団員には地域密着型の広報を展開する能力もあり、火災予防運動時の広報活動にあわせて、地元マンションや商店街及び在留外国時などへの防災広報について広く情報発信を行い、これまで防災訓練に参加したことがない住民の参加を促すなど地域住民と一体となったタイムリーで持続可能な地域防災体制を推進することが必要である。

⑵　外国人への防災指導

近年、在留・訪日外国人の増加に伴い、地域における災害対応や防火対策において、多言語での情報提供や適切な避難行動の周知が重要な課題となっている。消防団には、地域防災の中核として行政及び関係団体と連携し、外国人が安心して滞在できるよう対応することが求められている。

アンケート調査結果では、１３．７％が外国人への防災訓練等の指導に携わったことがあり、その中でも４１．７％が不便を感じており、言語によるコミュにケーションの難しさ、身振り手振りでの対応への限界を感じ

ており、ソフト面での技術的支援による負担軽減を求める声がある。今後も、外国人を対象とした防災指導等が予想されることから、英語のみに限定せず多言語での防災訓練指導等などに対応できるような多言語対応可能な変換ソフトも使用できる消防団タブレット端末の配置が必要である。

第２　災害対応力の強化と訓練の実効性

中野区は２３区の中でも人口密度が高く、住宅が密集する地域も多いことから、首都直下地震が発生した場合１１件前後の出火件数から約１，３００棟近くに延焼拡大することが予想されており、同時に家屋の倒壊等による救助活動や傷病者の発生が想定されている。震災時の被害軽減と迅速な消防活動を実現するためには、消防団が単独でも主体的に被害状況を判断し消防活動を行うことが重要である。

そのため、あらゆる訓練機会を捉え、災害に対する消防団員一人一人の意識の醸成を図りながら、平時の火災出動における確実な水利部署や積極的なホース延長及び放水等の消防活動訓練を通じた活動能力の維持向上が必要である。

１　「首都直下地震を想定した実践的な訓練の定着」

⑴　東京消防庁ｅ-ラーニングシステムを有効に活用した教育訓練体系の構築

アンケート調査からも、３２．９％が東京消防団e-ラーニングシステム等により普段から自己学習を行っているとの回答している。さらに、東京消防庁ｅ-ラーニングシステムは、消防団活動に必要とさる学習コンテンツが多くあり、新入団員については基礎教育の自己学習として、経験豊富な消防団員においても、知識の振返り訓練や活動動画の確認など、項目別の自己学習が進められる有効なツールとして利活用されている。特に、ＣＧ動画については、出場から消火までの一連の活動を学べるよう作成されていることから、部分訓練で身についた知識技術の実戦をイメージすることで、個々のレベルアップにつながり、実動訓練がより効果的に行われることが期待される。引続き東京消防団e-ラーニングシステムを活用していない団員も含めて積極的な活用が望まれる。

なお、令和６年３月には特別区消防団災害活動等検討委員会の検討結果を踏まえ、「特別区消防団火災対応訓練マニュアル」及び「消防団方面訓練場活用マニュアル」が学習項目に整備され、マニュアル内にある二

次元コードは、東京消防団ｅ-ラーニングシステム内の動画とリンクしており、各種マニュアルと関連させた効果的で実戦的な訓練をさらに推進していく必要がある。

⑵　個々の団員が行う訓練経過や訓練内容を記録しておくことへの必要性について

アンケート結果から、９２．５％が「訓練の進捗管理等が必要である」と回答している。

このアンケート結果を踏まえ、訓練経過や訓練内容を蓄積したデータベースを携帯等で確認できる「見える化」アプリの他に、ＡＩを活用した様々な災害想定動画を作成し、携帯やタブレット端末でリアルな訓練シミュレーションを視聴できるシステムなど、消防団員の災害対応への意識の醸成と災害活動力の更なる向上を推進することが必要である。

⑶　実災害に即した署隊との多様な連携訓練の推進

これまでも消防署訓練施設や方面訓練場を活用して、消防職員と合同で訓練を推進しているが、アンケート調査から９６．６％が消防署隊との連携訓練が必要と回答しており、総合訓練や放水訓練及び救助資機材の操作訓練等が必要と感じている。平時の火災のみならず、危惧される首都直下地震での被害を軽減するためにも、消防署隊が行う震災・水災訓練の図上及び実動訓練に参加するなど多様な連携訓練を、年間を通じて実施することで、より実戦的な知識と技術の体得が可能となることから引続き機会を捉えて推進していくことが必要である。

２　消防団自らが企画・実施する主体的な訓練の推進と充実

⑴　各消防団の地域特性に応じた訓練内容、方策の検討

各消防団の管轄区域の地域特性も踏まえ、火災対応や救助、応急救護など、大規模災害時等に真に必要となる活動の訓練を推進していく必要がある。そのためには、各分団員が、地域の活動困難性などの地域特性を理解することが重要であり、あわせて、消防団員一人一人がホース延長や放水等の個々の基本的な操作を確実にでき、活動の困難性が高い地域での応用など、地域特性に応じた基本と応用訓練を計画していく必要がある。

⑵　方面訓練場や消防署訓練施設の有効活用に向けた方策の検討

消防署等での訓練については、活動スペースが限られるなど、街区を

イメージした一連の実戦的な消火活動訓練を行うために、定期的に東京消防庁方面訓練場を活用した訓練を年度教育訓練計画に盛込み訓練機会を構築していく必要がある。

また、震災などの大規模災害などでは、近隣消防団と連携し災害活動する機会があることから、顔の見える関係を作るためにも連携訓練を推進する必要がある。

おわりに

「首都直下地震等による東京の被害想定」によると、都心南部直下地震では最大６２３件もの火災が同時多発的に発生すると想定されており、消防署と消防団が連携した活動はもちろんのこと、消防力が劣勢の場合は、消防署、消防団それぞれが単独で消火活動にあたることが想定されている。消防団が単独で活動していくうえで重要となるのは、「自ら考え、判断し、行動する」ことである。これらは、一朝一夕でできるものではなく、普段の訓練の積み重ねにより習得していくことや、消防団員としての自律的な活動ができるよう意識を醸成する必要がある。

地域特性に応じた具体的な取組みを推進し、特別区消防団の更なる組織力の向上を図り、消防団員がモチベーションを高く維持して消防団活動ができるよう、地域住民から期待や感謝を実感できるよう組織力を強化するとともに、実戦的訓練により災害活動能力を更に向上させ、地域の安心・安全を確保し住民の負託に応えていくことを期待する。

以上を答申するものである。

資料３

# 消防団活動に対するアンケート調査集計

中野・野方消防団の回答者属性（ｎ＝１６１）

１　階級

| | 人　数 |
|---|---|
| 団長 | ２ |
| 副団長 | １０ |
| 分団長 | １７ |
| 副分団長 | ２５ |
| 部長 | ３０ |
| 班長 | ２２ |
| 団員 | ５５ |

２　性別

| | 人　数 | 割合（%） |
|---|---|---|
| 男 | １２１ | ７２．５ |
| 女 | ４０ | ２４．８ |

３　年齢

| | 人　数 | 割合（%） |
|---|---|---|
| １８～２９歳 | １３ | ８．１ |
| ３０～３９歳 | ９ | ５．６ |
| ４０～４９歳 | ２５ | １５．５ |
| ５０～５９歳 | ５８ | ３６．０ |
| ６０～６９歳 | ４９ | ３０．４ |
| ７０歳以上 | ７ | ４．３ |

４　消防団経験年数

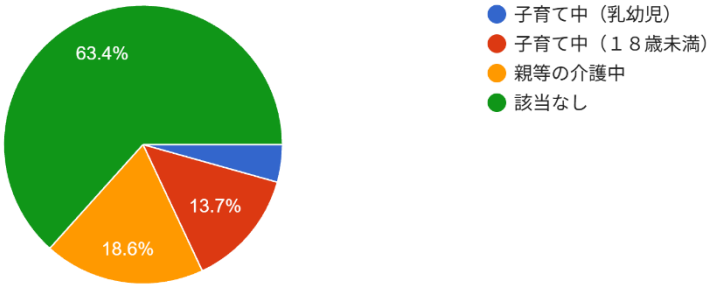
| | 人　数 | 割合（%） |
|---|---|---|
| ５年未満 | ３２ | １９．９ |
| ５年以上１０年未満 | ４０ | ２４．９ |
| １０年以上２０年未満 | ２６ | １６．１ |
| ２０年以上３０年未満 | ３０ | １８．６ |
| ３０年以上 | ３３ | ２０．５ |

アンケート結果

## 設問１　消防団活動の効率化による負担軽減について

【設問１-１】　あなたの生活環境（家族）に当てはまるものを選択（複数選択可）して下さい。

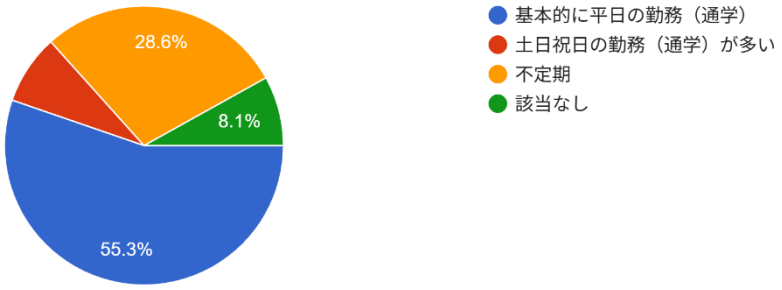
161 件の回答




| | 人　数 | 割合（%） |
|---|---|---|
| １　子育て中（乳幼児） | ７名 | ４．３％ |
| ２　子育て中（18 歳未満） | ２２名 | １３．７％ |
| ３　親等の介護中 | ３０名 | １８．６％ |
| ４　該当なし | １０２名 | ６３．４％ |

【設問１-２】　あなたの生活環境（勤務、通学）に当てはまるものを1つ選択してください。

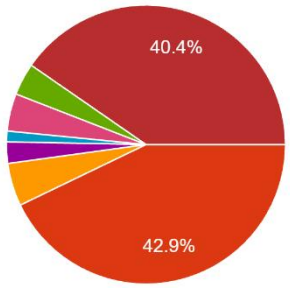
161 件の回答

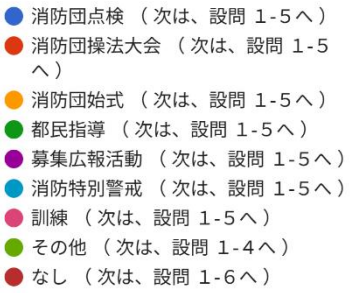



| | 人　数 | 割合（%） |
|---|---|---|
| １　基本的に平日の勤務（通学） | ８９名 | ５５．３％ |
| ２　土日祝日の勤務（通学）が多い | １３名 | ８．１％ |
| ３　不定期 | ４６名 | ２８．６％ |
| ４　該当なし | １３名 | ８．１％ |

【設問１-３】　消防団活動で最も負担に感じているものを１つ選択してください。

161 件の回答




| | 人　数 | 割合（%） |
|---|---|---|
| 1　消防団点検（ 次は、設問 1-5 へ ） | | |
| 2　消防操法大会（ 次は、設問 1-5 へ ） | ６９名 | ４２．９％ |
| 3　消防団始式（ 次は、設問 1-5 へ ） | ８名 | ５．０％ |
| 4　都民指導（ 次は、設問 1-5 へ ） | | |
| 5　募集広報活動（ 次は、設問 1-5 へ ） | ４名 | ７．５％ |
| 6　消防特別警戒（ 次は、設問 1-5 へ ） | ２名 | １．２％ |
| 7　訓練（ 次は、設問 1－5 へ ） | ７名 | ４．３％ |
| 8　その他（ **次は、設問 1-4 へ** ） | ６名 | ３．７％ |
| 9　なし（ **次は、設問 1-6 へ** ） | ６５名 | ４０．４％ |

【 設問 1-4 】

「その他」と答えた方は、その他の負担となる項目と理由を記載してください。

（記載後は、設問 1-5 へ）

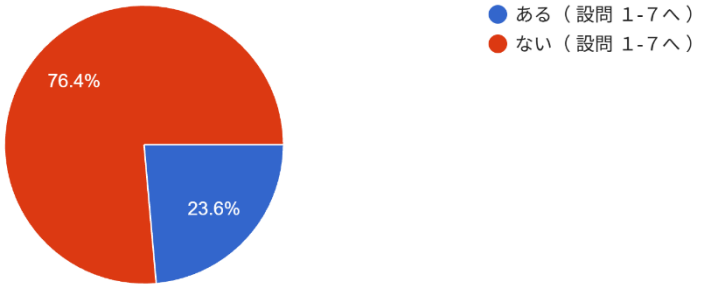
・土、日曜日の訓練
・平日の日中に仕事だと夜分団会議に出席が難しい。
・夜の操法訓練は、見通しが悪く狭い道路など環境が整っていないので、休日の午前中など明るい時間帯等に訓練が出来ると良い。

【 設問 1-5 】

選択した活動を負担に感じる理由と、改善策があれば記載してください。
（ 記載後は、設問 1-6 へ ）

| | 理　由 | 改善策 |
|---|---|---|
| 1　消防団点検 | | |
| 2　消防操法大会 | ・操法大会、都大会への訓練日数が多いと感じる。<br>・現実的な訓練でなく、大会出場者のみが訓練するのも心理的に負担<br>・積載車操法など実践的な操法を行ったほうが良い。 | ・操法訓練の根本的改善<br>・操法訓練では選手のみ放水訓練に関わるので、より多くの団員が実践的な訓練の出来る総合訓練を増やして欲しい。<br>・実践的な震災や自然災害想定の訓練を行って欲しい。 |
| 3　消防団始式 | | |
| 4　都民指導 | | |
| 5　募集広報活動 | | |
| 6　消防特別警戒 | | |
| 7　訓練 | | |

【設問１-６】
各種の提出書類（出場通知・身分関係届出書類）等...ついて、提出を負担に感じることはありますか。
161 件の回答




該当番号を１つ選択してください。（ 選択後は、設問 1-7 へ ）

| | 人　数 | 割合（%） |
|---|---|---|
| 1　ある | ３８名 | ２３．６% |
| 2　ない | １２３名 | ７６．４% |

【設問１-７】　各種手続きのデジタル化について、当てはまるものを１つ選択してください。

161 件の回答



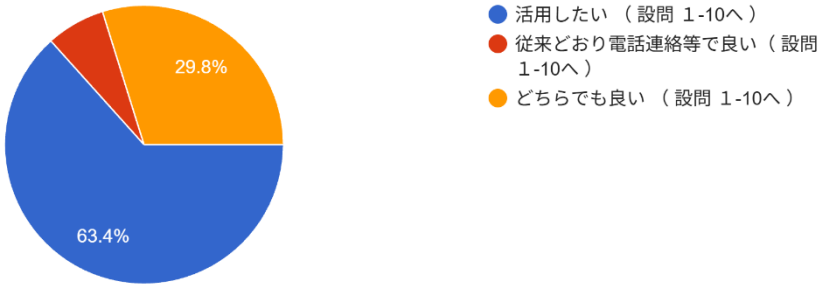

| | 人　数 | 割合（%） |
|---|---|---|
| １　積極的にデジタル化を進めたほうが良（ 次は、設問 1-9 へ ） | ８２名 | ５０．９% |
| ２　従来の方法（紙で書類提出）で良い（ は、設問 1-9 へ ） | ３名 | １．９% |
| ３　どちらも使用できるようにしたほうが良い（ 次は、設問 1-9 へ ） | ７６名 | ４７．２% |
| ４　その他（ **次は、設問 1-8 へ** ） | | |

【 設問 1-8 】

「その他」と回答した方は、内容を記載してください。（ 記載後は、設問 1-9 へ ）

・各種救命認定証等のデジタル化。

【設問１-９】
各種災害発生時（火災出動・震災、水災時の非常...いか、当てはまるものを一つ選択してください。
161 件の回答




（ 選択後は、設問 1-10 へ ）

| | 人　数 | 割合（%） |
|---|---|---|
| 1　活用したい | １０２名 | ６３．４％ |
| 2　従来どおりで良い電話連絡等でよい | １１名 | ６．８％ |
| 3　どちらでも良い | ４８名 | ２９．８％ |

【 設問 1-10 】
消防団専用ツールアプリがあれば期待する機能として、災害情報の連絡以外にどのような機能があればよいと思いますか。該当番号を選択してください。（複数選択可）

| | 人　数 |
|---|---|
| 1　各種連絡事項（団長通知等）<br>（ 次は、設問 1-12 へ ） | １１９名 |
| 2　月報など書類等のデータ提出<br>（ 次は、設問 1-12 へ ） | ７０名 |
| 3　水利情報（ 次は、設問 1-12 へ ） | ８０名 |
| 4　地図機能（ 次は、設問 1-12 へ ） | ８３名 |
| 5　災害連絡時含む各種情報到着時の通知音<br>（ 次は、設問 1-12 へ ） | ７８名 |
| 6　その他（ **その他があれば、設問 1-11 へ** ） | ８名 |

【 設問 1-11 】

「その他」と回答した方へ、期待する機能内容を記載してください。

(記載後は、設問 1-12 へ)

・団長通知が確認できる機能

・サークルスクエアとか既存のソフト以外で、業務で使える slack など。アプリなら、災害時ネット環境不通に備え gemma4 等の機能

・可能であれば出場の有無まで。 無しまであるとこちらも安心感があるから。

・アプリから e-ラーニングにリンクできる機能があるとうれしい。

・e-ラーニングにある災害活動マニュアル等を情報共有する機能や訓練時に撮影した動画を再生共有する機能。

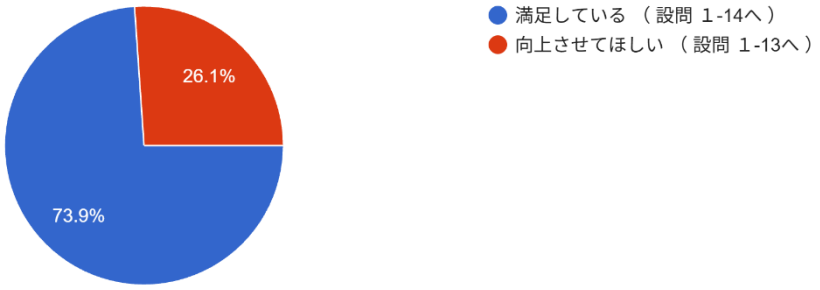
・出火報の連絡以外に、延焼中～鎮火までの状況通知機能

・各消防団の活動事例、消防団活動に関わる情報（記事）閲覧機能

・区内のＡＥＤの常置場所がわかる地図機能

【設問 1-12】 各種資器材の機能性、利便性につい当てはまるものを選択してください。

161 件の回答




| | 人　数 | 割合（%） |
|---|---|---|
| １　向上させてほしい<br>（ 次は、設問 1-1 へ ） | ４２名 | ２６．１% |
| ２　満足している<br>（ 次は、設問 1-14 へ ） | １１９名 | ７３．９% |

【 設問 1-13 】

「向上させてほしい」と選択した方は、改善を望む資機材名称・改修内容や期待される効果があれば具体的に記載してください。( 次は設問 1-14 へ )

・発電機は、ローラー付きで持ち運びが簡単なものに期待
・活動服の生地がストレッチ素材を期待
・筒先を署隊と同じガンタイプに期待
・積載車、可搬ポンプともにバッテリー絡みが劣化早いため、改善願います
・消防署隊ポンプ車に搭載ＡＶＭのように、ナビゲーションシステムに水利情報が表示されると良い。

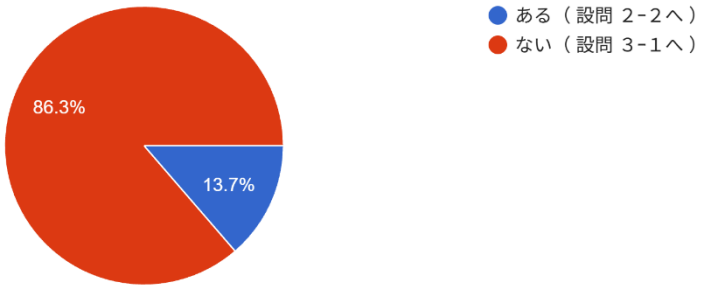
【 設問 1-14 】

各種資機材で、新たに導入したほうが良いと思う資機材があれば、期待される効果も含めて記載してください。( **次は、設問 2-1 へ** )

・アウトドア用ポータブル冷蔵庫
・筒先を署と同様のガンタイプノズルにして、共有性を高める。
・ソーラーパネルで蓄電装置
・各分団のタブレット端末の更新や 1 台以上ノートパソコンを整備して、提出書類の共有、事務処理の簡素化
・震災時の活用に大型の油圧ジャッキが欲しい
・初期消火や情報収集にオートバイの配置
・大型の蓄電池（災害時の緊急電源）
・積載車では資機材搬送に限界がある（後部座席程度でわずか）ので、組立式リアカーを導入してほしい。長距離ホース延長にも活用できる。
・震災用の大型浄水機設や簡易トイレの設置

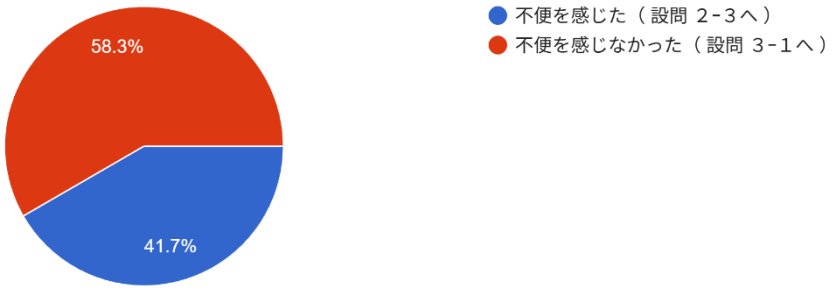
## 設問２　多様な主体との連携による被害軽減方策について

【設問２-１】
防災訓練や救命講習等で外国人に対する指導につ...りますか。当てはまるものを選択してください。
161 件の回答




| | 人　数 | 割合（%） |
|---|---|---|
| １　指導経験がある<br>（ 次は、設問 2-2 へ ） | ２２名 | １３．１％ |
| ２　指導経験がない<br>（ 次は、設問 3-1 へ ） | １３９名 | ８６．３％ |

【設問２-２】　「ある」と答えた方は、当てはまるものを選択してください。
24 件の回答




| | 人　数 | 割合（%） |
|---|---|---|
| １　不便を感じた<br>（ 次は、設問 2-3 へ ） | ９名 | ４１．７％ |
| ２　不便を感じなかった<br>（ **次は、設問 3-1** ） | １３名 | ５８．３％ |

【 設問　2-3 】

「不便を感じた」と回答した方は、どのような点が不便に感じたのか具体的に記載してください。また、対応策があれば記載してください。

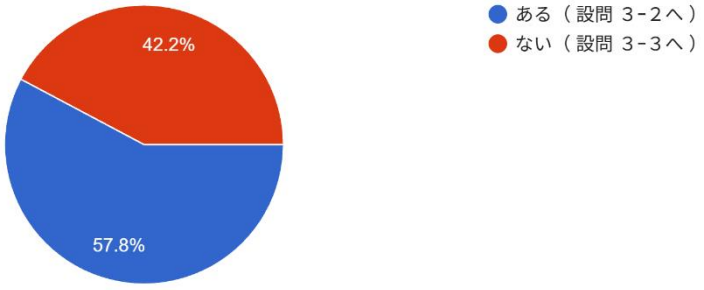
（ 記載後は、設問 3-1 へ ）

・救命講習用に英語版テキストがない。
・通訳がいればより充実した内容になる。
・自分が外国語を話せないことにストレスを感じた。英語の勉強も必要だなと感じた。
・最近、ネパール語を話す方が多く、意思疎通に苦労しました。
・消防含む防災関係の専門用語を英語で話すことが結構難しく、最後は身振り手振りで指導を行った。使用頻度の高い用語の一覧があると良い。国際化が進んでいる事から、翻訳機能付アプリを市販の物で良いので導入して欲しい。
・救命講習指導会場で、英語力の力不足を感じた。

## 設問３　首都直下地震を想定した実戦的な訓練の定着について

【設問３-１】　実災害での活動に不安を感じていることはありますか。

161 件の回答




| | 人　数 | 割合（%） |
|---|---|---|
| １　ある<br>（ 次は、設問 3-2 へ ） | ９３名 | ５７．８％ |
| ２　ない<br>（ 次は、設問 3-3 へ ） | ６８名 | ４２．２％ |

【 設問 3-2 】

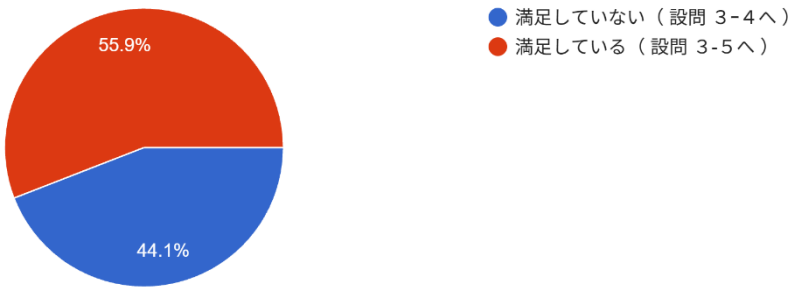
「ある」と回答した方は、どのような不安があるか、具体的に記載してください。

（ 記載後は、設問 3-3 へ ）

・大災害が発生した時、消防団だけで訓練通り対応できるか不安
・勤務地からスムーズに帰宅して活動出来るか不安
・災害の時に介護している義母を残して行くのが心配
・大地震後、何をしたらいいのか、するべきなのかよくわからない。
・火災出動が少なく、洪水警報での出動も滅多にある訳でも無いので、訓練で必要な知識や技術を積み重ねても、実際に出動した時冷静でいられるか不安
・連絡報告の体制がスマホだけでは厳しい
・分団員の足並みが揃っておらず、資機材の使用に不安を感じ、自身の身の危険も感じる。
・地域住民へ適切な避難誘導や避難所での対応ができるかどうか不安
・外国人対応で、最近では民泊も増えており不安
・消防団事務局の職員抜きで、消防団単独での活動に不安。
・平時の訓練などが少なく、実働できるか不安です。
・実災害時に対応できる団員の確保ができるか不安
・各消防団で、どこまで住民に寄り添えるか不安。
・実際に災害が発生した際、訓練通りに対応できるか不安

【設問３-３】　災害対応力を強化するため、現行の訓練に満足していますか。

161 件の回答



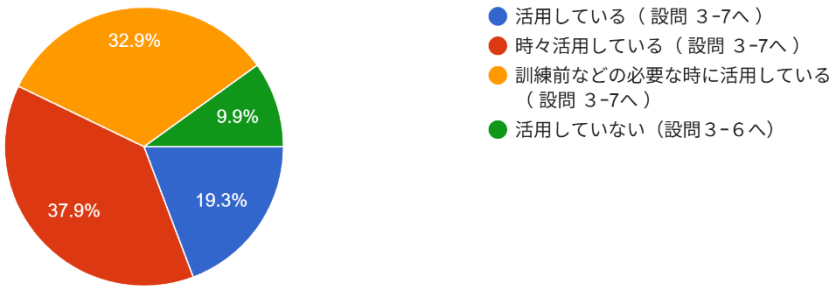

| | 人　数 | 割合（%） |
|---|---|---|
| 1　満足していない<br>（ 次は、設問 3-4 へ ） | ７１名 | ４４．１％ |
| 2　満足している<br>（ 次は、設問 3-5 へ ） | ９９名 | ５５．９％ |

【 設問 3-4 】

「満足していない」と回答した方は、どのような訓練を実施したいか記入してください。( 記載後は、設問 3-5 へ )

・倒壊建物、瓦礫からの救出訓練
・実践的な結索訓練（ロープの結び方）
・実際に災害発生時、消防団として火を消す以外、どのような活動をするのか
・震災時、建物内からの救出訓練など
・火災現場、倒壊現場からの救出方法など
・避難所などへの誘導訓練、避難所設置訓練、災害時の救助訓練
・有圧水利部署から火点へ放水するまでの一連の訓練（機関員を増やす。）
・災害を想定した訓練をしたい。
・放水訓練を増やして欲しい
・操法大会に向けた訓練は行っているが、実際の火災現場では筒先(1 番員)と機関員(4 番員)が大事なため、1 番員と 4 番員の操法を学べる機会があると良い
・実践に即した訓練が必要と思います。
・ホースバックなどを担いで実際に解体現場等、足場の悪い所でのホース延長及び放水、無線を使いながらの訓練 タブレットを活用した実践訓練
・震災に備え、地元住民と防災訓練を通じて連携訓練を実施
・全分団ではなくても、隣接する複数の団で、可搬ポンプの取り扱い含めた中継放水訓練をやってみたいです。

【設問３-５】
東京消防団ｅ－ラーニングシステムの自己学習状況について１つ選択してください。
161 件の回答




| | 人　数 | 割合（%） |
|---|---|---|
| 1　活用している<br>（ 次は、設問 3-7 へ ） | ３１名 | １９．３% |
| 2　時々活用している<br>（ 次は、設問 3-7 へ ） | ６１名 | ３７．９% |

| | | |
|---|---|---|
| 3　訓練前などの必要な時<br>用している<br>（ 次は、設問 3-7 へ ） | ５３名 | ３２．９％ |
| 4　活用していない<br>（ **次は、設問 3-6 へ** ） | １６名 | ９．９％ |

【 設問 3-6 】

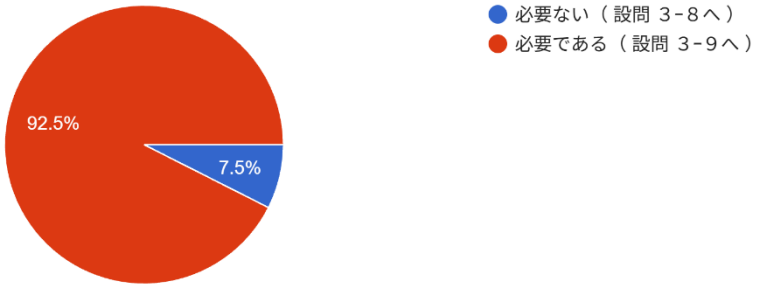
「活用していない」と回答した方は、どのような方法で知識の習得に努めているのか、具体的に入力してください。（ 次は、設問 3-7 へ ）

（・消防団先輩かの誘い
・分団会議などの分団内の連絡共有）

【設問３-７】

訓練の進捗管理として訓練経過や訓練内容を記録しておくことは、必要だと思いますか。

161 件の回答




| | 人　数 | 割合（%） |
|---|---|---|
| 1　必要ない<br>（ 次は、設問 3-8 へ ） | １２名 | ７．５％ |
| 2　必要である<br>（ 次は、設問 3-9 へ ） | １４９名 | ９２．５％ |

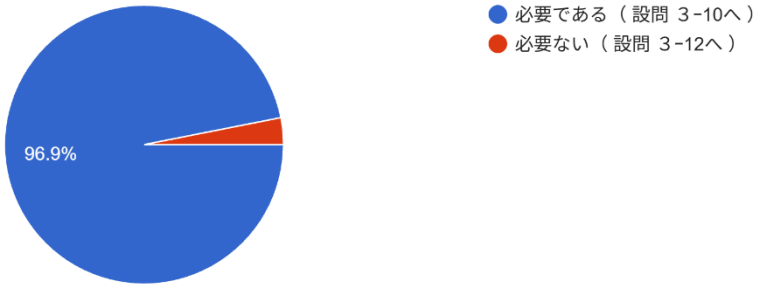
【 設問 3-8 】

「必要ない」を回答した方は、必要としない理由を記載してください。

（ 記載後は、設問 3-9 へ ）

（・管理しすぎると負担が増える。
・今までしないで支障がない
・誰が管理するのか、特定の人の負担が増えるだけと考えます）

【設問３-９】　実践的な訓練として、消防署隊と実災害に即した連携訓練が必要だと思いますか。
161 件の回答




| | 人　数 | 割合（%） |
|---|---|---|
| １　必要である<br>（ 次は、設問 3-10 へ ） | １５６名 | ９６．９％ |
| ２　必要ない<br>（ 次は、設問 3-12 へ ） | ５名 | ３．１％ |

【 設問 3-10 】
「必要である」と回答した方へ、実施したい訓練について該当するものを選択してください。（複数回答可）

| | 人　数 |
|---|---|
| １　総合想定訓練<br>（ 次は、設問 3-13 へ ） | １１３名 |
| ２　放水訓練<br>（ 次は、設問 3-13 へ ） | ８２名 |
| ３　救助訓練：資器材及びロープの取扱い等（ 次は、設問 3-13 へ ） | １０４名 |
| ４　操法訓練<br>（ 次は、設問 3-13 へ ） | ４７名 |
| ５　応急救護訓練<br>（ 次は、設問 3-13 へ ） | ８９名 |
| ６　その他（ **※その他がある場合、設問 3-11** へ ） | ４名 |

【 設問 3-11 】

「その他」を選択した方は、実施したい訓練内容を入力してください。

（ 記載後は、設問 3-13 へ ）

・現場を想定した訓練
・出動訓練等
・震災時の救助や避難誘導等

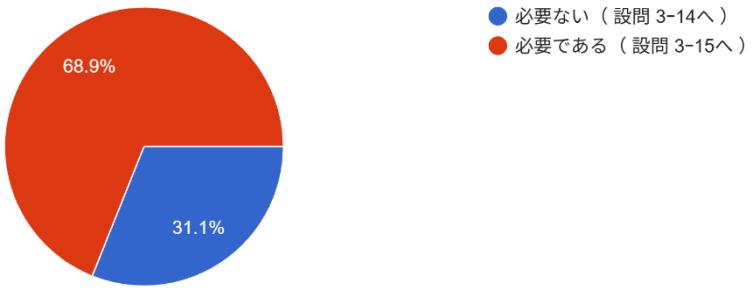
【 設問 3-12 】

「必要なし」と回答した方は、理由を記入してください。（ 記載後は、設問 3-13 へ ）

・いざやってみないとわからないため
・理想と現実　みんなが修得出来る程集まれないと思う。

【設問３-13】 震災等における長期間の活動を継...泊を伴う訓練等を想定）は必要だと思いますか。

161 件の回答




| | 人　数 | 割合（%） |
|---|---|---|
| 1　必要である<br>（ 記載後は、設問 3-15 へ ） | １１１名 | ６８．９％ |
| 2　必要ない<br>（ 記載後は、設問 3-14 へ ） | ５０名 | ３１．１％ |

【 設問 3-14 】

「必要ない」と回答した方は、理由があれば記入してください。

（入力後は、設問 3-15 へ）

・連続 2 日間を訓練する時間を確保するのが大変
・自分の仕事優先の活動なので、負担が大きすぎる
・宿泊はいらない。シミュレーションができればよい
・仕事との両立が困難
・長時間の放水訓練などは必要になるかもですが、宿泊を要するとなると仕事の都合などもあり参加出来る団員が少なく限られてしまう
・大規模災害が起こった場合は長時間活動となることは当然だが、訓練としては現状のままで良いと思う
・長期の訓練は必要ないと考える

【 設問 3 -15 】

震災訓練等を想定した長時間活動訓練（放水・宿泊）を実施する場合、どのような課題があるか、あれば記載してください。（ **記載後は、設問 4-1 へ** ）

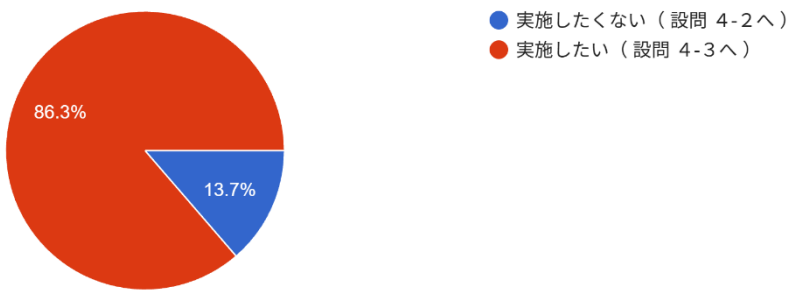
（ 記入例～　仕事があるので無理、育児で時間がない等 ）

・参加できる人がかなり限られる
・参加者が限定される。広く全団員に訓練が行き渡らない。
・実際には働きながら、子育てもあり参加難しい
・本業や家庭が有るなかで、現実的には不可能
・限られた人になると思うが、良い実践経験が積める
・仕事や家庭の事情はそれぞれありますが、訓練に必須項目をいついつまでに取得とかの期限を設けて、できるだけ、長く団活動ができたらいいかなと思う

## 4　消防団自らが企画・実施する主体的な訓練の充実について

【設問４-１】　消防方面訓練場や消防署での訓練を実施したいですか。

161 件の回答




| | 人　数 | 割合（%） |
|---|---|---|
| １　実施したくない<br>（ 次は、設問 4-2 へ ） | ２２名 | １３．７% |
| ２　実施したい<br>（ 次は、設問 4-3 へ ） | １３９名 | ８６．３% |

【 設問 4-2 】

「実施したくない」と回答した方は、理由を記載してください。

（ 記載後は、設問 4-3 へ ）

・家庭にの都合で時間がとれない
・都内の消防署では駐車場等や搬入、移動等が難しい場面があると思う。
・育児で長時間は活動できない
・具体的に何ができるかわからない
・家から近い消防署や出張所なら参加したい

【 設問 4-3 】

「実施したい」と回答した方は、実施したい訓練について該当するものを選択してください。(複数回答可)

| | 人　数 |
|---|---|
| 1　総合想定訓練<br>（ 次は、設問 4-5 へ ） | １０５名 |
| 2　放水訓練<br>（ 次は、設問 4-5 へ ） | ８４名 |
| 3　救助訓練：資器材及びロープ取扱い<br>（ 次は、設問 4-5 へ ） | １００名 |
| 4　操法訓練<br>（ 次は、設問 4-5 へ ） | ４０名 |
| 5　応急救護訓練<br>（ 次は、設問 4-5 へ ） | ８０名 |
| 6　その他<br>（ 次は、設問 4-4 へ ） | ４名 |

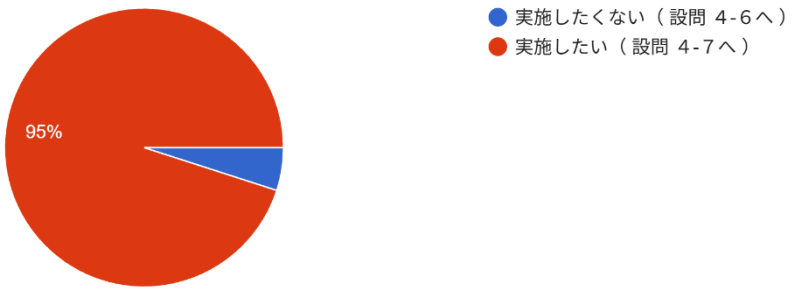
【 設問 4-4 】

「その他」を選択した方は、実施したい訓練内容を記入してください。

（ 記載後は、設問 4-5 へ ）

（
・分団本部へ参集してからの出動訓練
・女性団員の体力や目線での訓練
・避難所の設置・仮設トイレ組み立て作業
）

【設問４-５】　地域ごとのリスク特性（住宅密集地…た火災対応訓練等を実施したいと思いますか。
161 件の回答

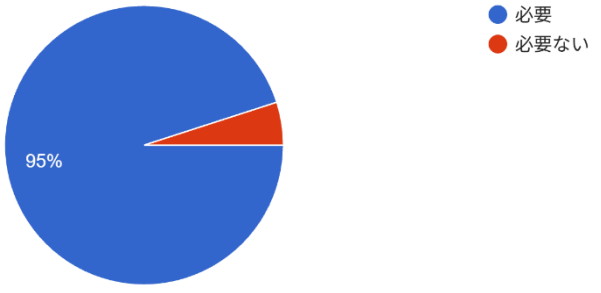



| | 人　数 | 割合（%） |
|---|---|---|
| １　実施したくない<br>（ 次は、設問 4-6 ） | ８名 | ５％ |
| ２　実施したい<br>（ 次は、設問 4-7 ） | １５３名 | ９５％ |

【
設問 4-6 】
「実施したくない」と回答した方は、理由を記載してください。

・体力的な問題
・育児で長時間は無理

【設問４-７】　団員のライフステージに応じた柔軟な訓練スケジュールは必要だと思いますか。
161 件の回答




| | 人　数 | 割合（%） |
|---|---|---|
| １　必要である | １５３名 | ９５％ |
| ２　必要ない | ８名 | ５％ |

資料４

# 消防団活動に対するアンケート調査について

**消防団活動の効率化による負担軽減等に向けた施策の検討資料とするため、下記のとおりアンケート調査についてご協力よろしくお願いいたします。**

・階級　＿＿＿＿＿＿＿＿　・消防団経験年数＿＿＿＿年＿＿＿＿カ月

・性別　男性　・　女性　・年齢　＿＿＿＿＿歳

※以下、設問の回答は該当番号を〇で選択し、設問に応じて理由等を記載してください。

## 設問１　消防団活動の効率化による負担軽減について

【 設問 1-1 】

あなたの生活環境（家族）に当てはまるものを選択（複数選択可）してください。

１　子育て中（乳幼児）　２　子育て中（18 歳未満）

３　親等の介護中　４　該当なし

【 設問 1-2 】

あなたの生活環境（勤務、通学）に当てはまるものを１つ選択してください。

１　基本的に平日の勤務（通学）　２　土日祝日の勤務（通学）が多い

３　不定期　４　該当なし

【 設問 1-3 】

消防団活動で、最も負担に感じているものを１つ選択してください。

１　消防団点検（ 次は、設問 1-5 へ ）　２　消防操法大会（ 次は、設問 1-5 へ ）

３　消防団始式（ 次は、設問 1-5 へ ）　４　都民指導（ 次は、設問 1-5 へ ）

５　募集広報活動（ 次は、設問 1-5 へ ）　６　消防特別警戒（ 次は、設問 1-5 へ ）

７　訓練（ 次は、設問 1－5 へ ）　８　その他（ **次は、設問 1-4 へ** ）

９　なし（ **次は、設問 1-6 へ** ）

【 設問 1-4 】

「その他」と答えた方は、その他の負担となる項目と理由を記載してください。

（記載後は、設問 1-5 へ）

【 設問 1-5 】

選択した活動を負担に感じる理由と、改善策があれば記載してください。

（ 記載後は、設問 1-6 へ ）

（　　）

【 設問 1-6 】

各種出場通知等の提出手続きについて、負担に感じることはありますか。

該当番号を１つ選択してください。（ 選択後は、設問 1-7 へ ）

１　ある　　２ない

【 設問 1-7 】

各種手続きのデジタル化について**１つ**選択してください。

１　積極的にデジタル化を進めたほうが良い（ 次は、設問 1-9 へ ）

２　従来の方法（紙で書類提出）で良い（ 次は、設問 1-9 へ ）

３　どちらも使用できるようにしたほうが良い（ 次は、設問 1-9 へ ）

４　その他（ **次は、設問 1-8 へ** ）

【 設問 1-8 】

「その他」と回答した方は、内容を記載してください。（ 記載後は、設問 1-9 へ ）

（　　）

【 設問 1-9 】

各種災害発生時（火災出動・震災、水災時の非常参集等）の情報伝達について、消防団専用の連絡用ツールアプリが提供された場合の活用について**１つ**選択してください。（ 選択後は、設問 1-10 へ ）

１　活用したい

２　従来どおりで良い電話連絡等でよい

３　どちらでも良い

【 設問 1-10 】

消防団専用ツールアプリがあれば期待する機能として、災害情報の連絡以外にどのような機能があればよいと思いますか。該当番号を選択してください。(複数選択可)

1　各種連絡事項（団長通知等）( 次は、設問 1-12 へ )
2　月報など書類等のデータ提出 ( 次は、設問 1-12 へ )
3　水利情報 ( 次は、設問 1-12 へ )
4　地図機能 ( 次は、設問 1-12 へ )
5　災害連絡時含む各種情報到着時の通知音 ( 次は、設問 1-12 へ )
6　その他 ( **その他があれば、設問 1-11 へ** )

【 設問 1-11 】

「その他」と回答した方へ、期待する機能内容を記載してください。
(記載後は、設問 1-12 へ)

【 設問 1-12 】

各種資機材の機能性、利便性について**1つ**選択してください。

1　向上させてほしい ( 次は、設問 1-13 へ )
2　満足している ( 次は、設問 1-14 へ )

【 設問 1-13 】

「向上させてほしい」と選択した方は、改善を望む資機材名称・改修内容や期待される効果があれば具体的に記載してください。( 次は設問 1-14 へ )

【 設問 1-14 】

各種資機材で、新たに導入したほうが良いと思う資機材があれば、期待される効果も含めて記載してください。（ **次は、設問 2-1 へ** ）

（　　）

## 設問２　多様な主体との連携による被害軽減方策について

【 設問 2-1 】

外国人の方への防災訓練及び救命講習指導等の経験はありますか。

1　指導経験がある（ 次は、設問 2-2 へ ）

2　指導経験がない（ 次は、設問 3-1 へ ）

【 設問 2-2 】

「ある」と答えた方は、当てはまるものを選択してください。

1　不便を感じた（ 次は、設問 2-3 へ ）

2　不便を感じなかった（ **次は、設問 3-1** ）

【 設問　2-3 】

「不便を感じた」と回答した方は、どのような点が不便に感じたのか具体的に記載してください。また、対応策があれば記載してください。

（ 記載後は、設問 3-1 へ ）

（　　）

## 設問３　首都直下地震を想定した実戦的な訓練の定着について

【 設問 3-1 】

実災害での活動で不安に感じていることはありますか。

1　ある（ 次は、設問 3-2 へ ）

2　ない（ 次は、設問 3-3 へ ）

【 設問 3-2 】

「ある」と回答した方は、どのような不安があるか、具体的に記載してください。

（ 記載後は、設問 3-3 へ ）

【 設問 3-3 】

災害対応力を強化するため、現行の訓練に満足していますか。

1　満足していない（ 次は、設問 3-4 へ ）

2　満足している　（ 次は、設問 3-5 へ ）

【 設問 3-4 】

「満足していない」と回答した方は、どのような訓練を実施したいか記入してください。（ 記載後は、設問 3-5 へ ）

【 設問 3-5 】

東京消防団ｅ-ラーニングシステムの自己学習状況について、１つ選択してください。

1　活用している（ 次は、設問 3-7 へ ）

2　時々活用している（ 次は、設問 3-7 へ ）

3　訓練前などの必要な時に活用している（ 次は、設問 3-7 へ ）

4　活用していない（ **次は、設問 3-6 へ** ）

【 設問 3-6 】

「活用していない」と回答した方は、どのような方法で知識の習得に努めているのか、具体的に入力してください。（ 次は、設問 3-7 へ ）

【 設問 3-7 】

訓練の進捗管理として訓練経過や訓練内容を記録は、必要だと思いますか。

1　必要ない　（ 次は、設問 3-8 へ ）

2　必要である（ 次は、設問 3-9 へ ）

【 設問 3-8 】

「必要ない」を回答した方は、必要としない理由を記載してください。

（ 記載後は、設問 3-9 へ ）

（　　）

【 設問 3-9 】

実践的な訓練として、消防署との連携による実災害に即した訓練が必要だと思いますか。

1　必要である（ 次は、設問 3-10 へ ）

2　必要ない　（ 次は、設問 3-12 へ ）

【 設問 3-10 】

「必要である」と回答した方へ、実施したい訓練について該当するものを選択してください。(複数回答可)

1　総合想定訓練（ 次は、設問 3-13 へ ）

2　放水訓練（ 次は、設問 3-13 へ ）

3　救助訓練：資器材及びロープの取扱い等（ 次は、設問 3-13 へ ）

4　操法訓練（ 次は、設問 3-13 へ ）

5　応急救護訓練（ 次は、設問 3-13 へ ）

6　その他（ **※その他がある場合、設問 3-11 へ** ）

【 設問 3-11 】

「その他」を選択した方は、実施したい訓練内容を入力してください。

（ 記載後は、設問 3-13 へ ）

（　　）

【 設問 3-12 】

「必要なし」と回答した方は、理由を記入してください。( 記載後は、設問 3-13 へ )

【 設問 3-13 】

震災等における長期間の活動を継続した訓練（長時間の放水訓練や宿泊を伴う訓練等を想定）は必要だと思いますか。

1　必要ない　( 記載後は、設問 3-14 へ )

2　必要である ( 記載後は、設問 3-15 へ )

【 設問 3-14 】

「必要ない」と回答した方は、理由があれば記入してください。

（入力後は、設問 3-15 へ）

【 設問 3 -15 】

震災訓練等を想定した長時間活動訓練（放水・宿泊）を実施する場合、どのような課題があるか、あれば記載してください。( **記載後は、設問 4-1 へ** )

( 記入例～　仕事があるので無理、育児で時間がない等 )

## ４　消防団自らが企画・実施する主体的な訓練の充実について

【 設問 4-1 】

消防方面訓練場や消防署での訓練を実施したいですか。

１　実施したくない（ 次は、設問 4-2 へ ）

２　実施したい　　（ 次は、設問 4-3 へ ）

【 設問 4-2 】

「実施したくない」と回答した方は、理由を記載してください。

（ 記載後は、設問 4-3 へ ）

【 設問 4-3 】

「実施したい」と回答した方実は、実施したい訓練について該当するものを選択してください。(複数回答可)

１　総合想定訓練（ 次は、設問 4-5 へ ）

２　放水訓練（ 次は、設問 4-5 へ ）

３　救助訓練：資器材及びロープ取扱い（ 次は、設問 4-5 へ ）

４　操法訓（ 次は、設問 4-5 へ ）

５　応急救護訓練（ 次は、設問 4-5 へ ）

６　その他（ 次は、設問 4-4 へ ）

【 設問 4-4 】

「その他」を選択した方は、実施したい訓練内容を記入してください。

（ 記載後は、設問 4-5 へ ）

【 設問 4-5 】

地域ごとのリスク特性（住宅密集地域や繁華街など）を踏まえた火災対応訓練等を実施したいと思いますか。

1　実施したくない（ 次は、設問 4-6 ）
2　実施したい　　（ 次は、設問 4-7 ）

【 設問 4-6 】

「実施したくない」と回答した方は、理由を記載してください。

（　　）

【 設問 4-7 】

団員のライフステージに応じた柔軟な訓練スケジュールは必要だと思いますか。

1　必要である　　2　必要ない

以上でアンケート調査は終了です。ご協力ありがとうございました。

資料　5

# 委員会日程（案）

| 開催回 | 審議内容 |
| --- | --- |
| 第２回<br>令和８年８月２５日 | １　今回の諮問事項に係る答申案の検討について<br>２　委員会日程について<br>３　その他 |
| 第３回<br>令和９年１月中 | １　答申案の審議<br>２　答申の決定 |